

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600487		
法人名	有限会社 光洋エステート		
事業所名	グループホーム 日吉		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1-9 (電話) 0144-72-6000		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年9月30日	評価確定日	平成21年10月16日

【情報提供票より】 (平成 21年 9月 18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年 5月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	16人、非常勤 1人、常勤換算 15.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 670円 暖房費: 300円(11月~4月) (共用部分含む)	
敷金	有 ( 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

### (4) 利用者の概要 (9月18日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.1 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団柴田循環器内科、医療法人社団とまこまい脳神経外科、伊尾歯科
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム日吉は、閉静な住宅街に位置し、平屋建ての造りで利用者や職員はユニット間を自由に行き来し交流を図っている。管理者はサービスの向上に熱意があり、職員と共に利用者本位のケアを行っている。行事を決めるときは、利用者にアンケートをとり、行きたい場所や外食のメニューを考えたり選んでもらったりしている。また、外出した際に、利用者が自宅に寄っていきたいと希望した場合は、コースを変えるなど柔軟な対応を行っている。地域との交流も盛んで、町内会の行事には積極的に参加し、近隣の小学校や老人クラブとの交流も盛んである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業所独自のケア理念は地域密着型サービスの役割を目指した内容にはまだなっていない。昨年に引き続き検討中とのことであり、その取り組みを期待したい。職員の異動の報告、職員の研修の充実、家族等の介護計画への参画などが改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価について職員全員に意義を説明し、全員の意見をまとめているが、全ての項目について把握しきれていない職員もいるので、今後は全員が積極的に自己評価に関わっていただけるような取り組みを期待したい。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の討議内容は、報告事項、介護保険についての最新情報、避難訓練、行事予定などであるが、行政担当者からの情報提供もあり、出席者の意見をサービス向上に生かしている。また議事録も整備されている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等が頻繁に訪問してくれるので、意見や不満等を気兼ねなく話せるような雰囲気づくりをしている。今年家族宛てにアンケートを実施し、寄せられた意見を集約しサービス向上に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会し、町内会の行事に利用者も職員と一緒に参加している。地域の小学校の運動会や学習発表会、老人クラブとの交流も盛んである。町内会の盆踊りにも今年から参加している。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自のケア理念はあるが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容にはなっていない。前年度の外部評価の取り組み事項であり、現在も引き続き取り組み中である。	○	昨年に引き続き地域密着を念頭に置いた理念を検討中とのことなので、その取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア理念を各ユニット等に掲示しており、パンフレットにも掲載している。職員は常に理念を意識して日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、町内会の行事に利用者も職員と一緒に参加している。地域の小学校の運動会や学習発表会、老人クラブとの交流も盛んである。町内会の盆踊りにも今年から参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価及び外部評価を実施する意義について職員全員に説明している。職員全員に自己評価について検討してもらい、管理者が全員の意見を参考に内容をまとめたが、記載シートがユニットに1部ずつの配付のため、全ての項目について把握しきれていない職員もいる。	○	職員一人ひとりに自己評価シートを配布し、個々に記載してもらおうなどの工夫で、全員が積極的に自己評価に関わっていけるような取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の討議内容は、報告事項、介護保険についての最新情報、避難訓練、行事予定などであるが、行政担当者からの情報提供もあり、出席者の意見をサービス向上に生かしている。また議事録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会あるごとに市を訪問し、運営上の相談をしている。利用者のことで届け出や相談があるときは、職員と利用者が一緒に訪問するなど市との親密な関係づくりに努めている。行政の担当者には運営推進会議にもほぼ毎回参加してもらっており、会議での意見は事業所のサービス向上に反映されている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時に利用者の状況を報告し、必要時には電話をしている。また、家族等が事業所のカンファレンスに参加することを積極的に勧めている。ホーム便り、金銭出納明細書・領収書を毎月郵送している。ホーム便りには、職員の異動状況も掲載している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が頻繁に訪問してくれるので、意見や不満等を気兼ねなく話せるような雰囲気づくりをしてる。今年度は家族宛てにアンケートを実施し、寄せられた意見を集約しサービス向上に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所が平屋建ての造りで、利用者や職員はユニット間を自由に行き来することができる。全職員が利用者と同顔馴染みの関係となっているため、職員が退職した場合の利用者への影響は少ない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の研修・教育計画があり、2、3ヶ月に1回のカンファレンスの場を利用して、職員が疑問や課題を持ち寄り学習会を行っている。職員が外部研修を受講希望のときは「外部研修参加伺」を提出するが、事業所が認めた場合は、費用負担なし、勤務扱いで研修を受けることができる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会の研修等に管理者と職員が参加している。同系列の近隣のグループホームとは行事等で交流している。また、3、4ヶ月に1回、職員が1名ずつ他の事業所を見学している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、必ず本人及び家族等にホームを見学してもらうことにしているが、入院中の場合は外出許可が出たときに職員が本人を迎えに行っている。どうしても本人がこられない場合は管理者等が自宅を訪問するなど、入居前に顔馴染みの関係をつくっている。入居日には、顔馴染みになっている職員が迎えられるよう勤務ローテーションに配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃から、職員は、料理の得意な利用者には酢の物など得意料理を教えてもらっている。囲碁・将棋、パークゴルフの得意な利用者が職員に手ほどきをし、一緒に楽しむこともある。敬老会の行事では、利用者と職員が話し合いながら一緒に準備を進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりの中で、会話や表情から、横になりたいのか、トイレに行きたいのか等一人ひとりの思いや意向を把握しようと努めている。行事を決めるときは、利用者に簡単なアンケートをとり、行きたい場所や外食のメニューを考えたり選んでもらったりしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時は、本人や家族の思いや意向を聞きながら暫定計画を作成し、1ヶ月後に見直しを行っている。個別のケース会議に家族が参加することもある。介護計画は、家族の来訪時に説明し、署名と捺印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に応じて3ヶ月から6ヶ月毎に見直しを行っている。入退院などにより体調に変化が生じた時は、職員や家族で話し合い現状に即した介護計画を作成している。介護計画は、日々のアセスメントを参考に、職員の意見を汲み上げ家族の意向を確認して計画作成担当者が作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助は家族が行っているが、状況に応じて職員が対応している。家族の来訪時に、食事や宿泊などの対応も行っている。また、外出した際に、利用者が自宅に寄っていきたいと希望した場合は、コースを変えるなど柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は自由である。現在半数ほどがかかりつけ医を継続している。家族から通院介助に関して相談を受けた時は、協力医療機関を紹介する事もあるが、家族と相談をして本人に合っているかどうかを見極めて医療機関を決定している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、利用者と家族に説明をしている。重度化した時は医師、家族、管理者と個別に話し合いを行い、受診結果と共に日々の記録に記入している。	○	重度化や終末期に向けた個別対応について、具体的にタイムリーな指針を作成していくように検討したい意向なので、その取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導は耳元で声かけしたり、「ちょっと行こう」などと他の利用者に気づかれないように配慮し、排泄後も消臭剤を使用している。契約書は事務所で保管し、日々の記録類はスタッフルームで保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、水分補強、バイタルチェックなど1日の流れはあるが、個々の利用者のペースで過ごせるように支援している。食事時間などは、利用者アンケートを取り時間を変更することもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況や身体能力に応じて、料理の下ごしらえ、お茶入れ、下膳や茶碗拭きなど職員と共に行っている。行事の時は、利用者の希望の献立で楽しい食事が出来るように支援している。おはぎやホットケーキなどのおやつを利用者と共につけて食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後に入浴を行い、最低週2回は入浴できるように支援している。利用者が希望すれば毎日でも午前中でも対応できる。入浴を拒否する利用者に対しては、午前中から声かけをしてタイミングを見計らい、入浴を楽しめるように配慮をしている。	○	最低週2回入浴できるよう支援しているが、夏季の暑い時や湿疹などの皮膚疾患がある場合は、積極的にシャワー浴などを働きかけていきたい意向なので、その取り組みを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状況や身体能力に応じて、調理や掃除、洗濯物たたみなどを職員と一緒にしている。囲碁やパークゴルフ、畑での苺の収穫を楽しんでいる。食欲が低下している時は、外食に出かけて本人が食べたい物を食べたり、ドライブなどで気晴らしが出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に応じて、天気の良い日は玄関前や敷地内の散歩を毎日行っている。夏季は、週1、2回近くの公園や町内の散歩なども行っている。冬季は、月1、2回イルミネーション見学や買い物、大型ショッピングセンターでの外食を楽しんでいる。	○	職員体制が整備されたので、今年は外出の機会を出来る限り増やして行きたい意向なので、その取り組みを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠している。玄関にはセンサーを設置し、居間や台所から利用者の出入りを把握し、利用者の安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力のもと、昼夜それぞれの避難訓練を行っている。今年の春には、町内会や近隣住民の参加のもと避難訓練を行っている。また、年1回、苫小牧市の消防本部の出前講座による救急救命法の講習を全職員が受講している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、食材提供会社の管理栄養士が立てている。水分や食事の摂取量は個別に記録している。利用者の摂取状況に応じて、水分不足はプリンで補ったり、食事が取れないときはミキサー食にしたり、ご飯をパンに変更するなど配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、浴室、トイレなど共有空間は広々とした造りである。季節感のある飾りや、職員手作りのフレームに入れた利用者の写真を飾るなど、落ち着いた自然な飾り付けで、居心地よく過ごせるよう環境作りにも配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台が設置されている。自分で装飾を施した思い出のあるタンスや小物入れ、仏壇、ソファなどそれぞれの利用者の好みの物が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるよう工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。